

The Study of Comparing Color Prints in Siebold 'NIPPON'

宮崎, 克則
九州大学総合研究博物館

<https://doi.org/10.15017/10285>

出版情報：九州大学総合研究博物館研究報告. 5, pp.1-56, 2007-01. The Kyushu University Museum
バージョン：
権利関係：





シーボルト『NIPPON』の色つき図版

宮崎克則

The Study of Comparing Color Prints in Siebold 'NIPPON' Katsunori MIYAZAKI

九州大学総合研究博物館：〒 812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1
The Kyushu University Museum : Hakozaki6-10-1, Higashi-ku, Fukuoka, 812-8581 Japan

はじめに

シーボルトは日本追放となってオランダへ帰り着き、2年後の1832年に36歳で『NIPPON』を刊行し始める。1851年までの約20年間に20分冊を13回に分けて自費出版した。13回の配本のうちには合併号・合併配本などがあり、決して一様でないが、1分冊につき図版17～20枚、そのうち2～3枚の色つき図版を配った(1)。

『NIPPON』に掲載された図版数は367枚。当時の日本の風景・風習・人物・産業・地図情報などがふんだんに盛り込まれている。これらの図版は、川原慶賀の絵をもとにしたり、他の資料に基づきオランダの画家たちによって石版画に描かれた。図版の右下、あるいは左下に極めて細かな文字で彼らの名前が記されている。それらの図版のうち、47枚に彩色がある。色ムラがあることから、色刷りでなく手彩色だということがわかる。

国内を中心に『NIPPON』を調査していくなかで、色つき図版にバリエーションがあることがわかってきた。これは今だからわかることで、出版当時の購入者たちにはわからなかったと思われる。『NIPPON』の作成・出版については、ライデンのラ・ラウが印刷したことは内表紙に記されているものの、彩色はどのように行ったのか、その費用はどれほどだったかなど、具体的な記録は多くない。そこ

で、現存する『NIPPON』を比較することによって、また、ほぼ同時期に自費出版した『日本植物誌』『日本動物誌』とも比べることによって、シーボルトの著作出版に対する方針を明らかにしていこう。

ここで使用する図版は、九州大学附属図書館医学分館が所蔵する初版・未製本の『NIPPON』(大正15年、医学部法医学教室購入、代金3000円)と、シーボルトの死後に在庫を買い取ったクオリッチによって販売された『NIPPON』(福岡県立図書館所蔵、大正7年購入、『日本植物誌』『日本動物誌』等を含めて代金4000円)を中心に、廉価版の色なし版を所蔵するシーボルト記念館本や他機関の『NIPPON』を参照していく。

〔注〕

(1) 拙稿「シーボルト『NIPPON』の配本」(『九州大学総合研究博物館研究報告』3号、2005年)。